

広見川等農業排水対策協議会のこれまでの取組と令和4年度の取組

平成17年に「四万十川流域の河川をきれいにする条例」を制定し、農業濁水流出防止対策の取り組みを強化するため、生産者組織、JA、愛媛県、関係市町で「広見川等農業排水対策協議会」が設立されました。

当協議会の活動は、田植え前後の農業排水パトロールや、モデル地区を設定し濁水防止看板の設置、浅水代かきの啓発、止水板の配布等を行っています。その他、平成29年度に土質調査、令和元年度に四万十市との意見交換会、令和2年度に石膏資材を使い水田内の濁水軽減の実証と米の品質調査を行いました。この石膏資材投入により濁水が軽減することを確認しました。

令和4年4月14日・4月26日・5月17日に宇和島市三間町～鬼北町～松野町～四万十市江川崎地区で河川の農業排水パトロールを行いました。四万十川支流域21ヶ所で採取した水の濁りを測定する透視度計で計測した数値は別添1になります。

令和4年11月29日に、高知県・四万十市・関係団体・当協議会で意見交換会を行い、各々の取り組み状況や展望について議論し、最後の清流四万十川を守る活動を継続することを話し合いました。

令和4年度は、これまで3年間行った石膏資材実証により、安定した濁水軽減効果を確認できたことから、水田への石膏資材投入で栽培した米を「自然環境米・三間のせせらぎ」・「自然環境米・鬼北のせせらぎ」として令和4年12月27日（火）から販売を開始しました。今後は水稻代かき作業の濁水軽減に向けた石膏資材利用面積の拡大と普及の促進を図ります。



図・1 四万十市等と広見川等農業排水対策協議会の意見交換会（四万十市江川崎）

※「代かき」作業とは、水田の土をトラクタで砕いて混ぜた後に、水田に水を入れて土を細かくドロドロ状態にして、水田を平らにならす作業。代かき作業は田植までに2回行い1回目を「荒代かき」2回目を「本代かき」という。

※代かき作業の目的は、①水田の水漏れを防ぐ。②水田の表面を均一にして水を全体にいきわたせる。③苗が植えやすくなる。④肥料をまんべんなく混ぜ込める。

自然環境米取り扱い箇所については、以下のとおりです。

(数量限定で無くなりしだい販売終了)

自然環境米・三間のせせらぎ：道の駅みなとオアシスうわじまきさいや広場

宇和島観光情報センターシロシタ

宇和島市ふるさと納税返礼品

自然環境米・鬼北のせせらぎ：道の駅森の三角ぼうし

鬼北町ふるさと納税返礼品



図-2 三間と鬼北の自然環境米の米袋



図-3 自然環境米の生産農家

令和4年広見川等農業排水対策協議会河川濁水状況調査

調査箇所

単位：cm

番号	地 区 名	4月14日	4月26日	5月17日
1	三間川 大藤地区	15	29	90
2	内平ヶ谷川 戸雁地区	87	23	85
3	三間川 迫目地区 松木堰	10	40	7
4	三間川 土居垣内地区 大井手堰	16	20	12
5	三間川 是延地区 鬼北町境	31	25	16
6	告森川 三間中間地区 鬼北町境	100	35	79
7	三間川 三間川合流①	47	22	37
8	告森川 三間川合流①	100	47	70
9	奈良川 三間川合流②	100	100	100
10	三間川 三間川合流②	82	28	42
11	広見川 久保地区	100	100	100
12	三間川 広見川合流①	92	40	69
13	広見川 広見川合流①	100	100	100
14	広見川 興野々地区 松野町境	100	78	100
15	鯛川 広見川入り口	61	40	100
16	鯛川 上流	100	58	100
17	広見川 野尻地区	100	59	100
18	広見川 鈴井地区	73	67	100
19	広見川 葛川橋 高知県境	83	58	100
20	広見川 江川崎地区	100	66	100
21	四万十川	100	100	100